



奥多摩秩父連山の眺望が素晴らしい



月夜峰の碑

月夜峰の伝説

八王子城主の北条氏照は獅子舞が好きで、満月の夜にはいつも家臣の娘達を連れて月夜峰に獅子舞を見に行っていたという。そのうち、ある娘（安寧姫）と獅子舞の笛吹き of 若者（狭間の隼人）が相思相愛の仲になった。獅子舞が終わると二人は榎と櫓の太木の下で寄り添い、若者は笛を吹き、娘は調べに聞き惚れた。別れ際には次の満月の夜に再び会える様、二人は木の根元に一つずつ石を投げたという。一方、遠くから聞こえる笛の音にいたく感激した氏照は家臣に笛の主を探させた。召された若者は氏照の前で笛を吹いた。若者と娘の思いを知った氏照は二人に夫婦の契りを結ばせたという。

◇散歩のみどころ

高尾街道の元八王子一丁目バス停付近に集合。南北凡そ5kmの行程。バス停から丘陵を少し行くと千人同心斎賀家の屋敷に出る。屋敷の裏道を行くと、明倫学校跡地である。戻って高尾街道古道を北東に歩くと七面大明神に着く。高尾街道に入り、常夜灯跡や三多摩政界の先駆者山口重兵衛の碑を見て、大沢川沿いに西へ。村長橋から暫く歩くと権現堂に出る。柳橋を左に折れ南下、間もなく神明神社から、虚無僧寺といわれた澤水寺跡、更に松子舞い団地を南へ。大六天神からおしやもじ様を拝し、劇団新制作座に着く。

見学後、市最古の板碑のある西光寺へ。御獄神社、養老田跡地を通り高尾街道へ。おついで地蔵から坂を上がり、北条氏照の妻比佐の庵といわれ、今は共立女子学園構内の月夜峰の碑へ。下りながら滝不動尊を拝し、出発したバス停に戻り、解散。

●元八王子とは

八王子権現の別当、神護寺（じごじ）慈根寺（じごじ）神宮寺（じごじ）という寺あり、村名を慈根寺村（古くは神宮寺）といった。

天正十八年（一五九〇）八王子城陥落後、慈根寺村の三宿（八幡宿・横山宿・八日市宿）は現在の八王子市内に移転。其の後十五宿となり現在に至っている。

慈根寺村は「元八王子村」となり、明治二十二年（一八八九）には近隣の七村（元八王子、川、式分方、大楽寺、上壺分方、下壺分方、横川）が合併。新しい元八王子村となる。

昭和三十年（一九五五）八王子市に編入合併。江戸期からの村名は一部変更になったが町内名で残った。下壺分方は四谷町、叶谷町、泉町となり、上壺分方は上壺分方町、諏訪町となる。

①千人同心の家（斎賀家）

元八王子町一丁目

八王子城落城後徳川家へ礼を誓った小人組と呼ばれる武田軍団を、甲斐から移住させた。当初小人組は九家、二百五十人で組織されていたが、九家を十家にして小人頭を十人とし、五百人の組織編制にした。

その後、北条、武田、大石、三田家の浪人五百人を召抱え、千人同心と称する半農武士の集団が成立する。元八王子地区に残る江戸時代から続く、同心の斎賀家も半農武士として活躍していた。



元八一丁目のバス停



斎賀家の石垣



千人同心斎賀家

②明倫学校跡地

元八王子町一丁目

明治十四年東明治小学校を諏訪宿長高円寺に、西明治小学校を式分方神戸におく。明治二十三年東西明治小学校の学区を変更し南北に分け、北部は諏訪宿東部に明治学校を、南部は慈根寺明倫山の西部に明倫学校をおく。明治四十一年現在地に元地王子村立元八王子高等小学校創立開校。明治四十三年四月三校を合併し元八王子村立元八王子尋常高等小学校創立。一村一校となる。開校記念日を五月十二日。



明倫学校跡地

③八幡宿の七面大明神

元八王子町一丁目

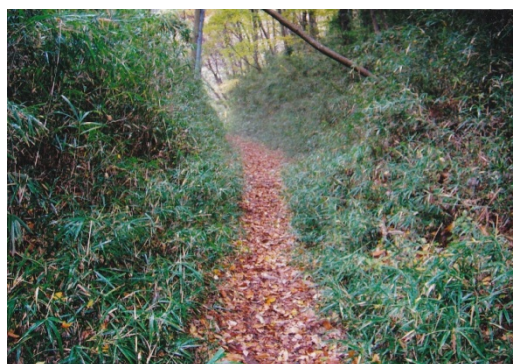
宗派 日蓮宗

本尊 七面天女木彫り坐像

開基 不明

例祭 毎年九月第一日曜

旧八幡宿の入口に位置する。本堂は檀家でつくる講中が弘化年間（一八四四〜四七）に寺方村の大幡山宝生寺（真言宗）から買受けて建てた。本堂の正面に宝暦四年（一七五二）



明倫学校跡裏山

建立の半鐘、境内には天保十年（一八三九）の石碑がある。特に宝暦十年の法塔は「多摩郡柚井領・元八王子村」と読める。江戸期に呼ばれた村名の証である。堂裏手には七面共同墓地があり、千人同心も眠っている。



七面大明神社



七面大明神内部



七面天女木彫り坐像



厨 子



並木以寧家の墓



法 塔



半 鐘



七面大明神社裏からの眺め（由井の牧領）



養老田と刻まれた碑



燈籠

● 燈籠（常夜燈）

以前は元八王子町一丁目（八幡宿）出口にあつたが、道路拡張工事で民家の庭に移された。

更に宅地造成と再び道路拡張（都市計画）工事に伴い解体され、三丁目の八幡神社の片隅に保存されていたが、平成二十二年（二〇一〇）二月に、氏子等によって神社境内に復活した。

● 慈根寺について

元八王子村の旧名、慈根寺村の名称の起源となる慈根山（じこんさん）西明寺という古刹が、八幡宮（元八王子三丁目）の東側にあったと伝えられる。今は西明寺時代の墓が残る、本堂跡は高速道路建設に伴って失われた。

創建は正暦年間（九九〇～九五）又は治承年間（一一七七～八一）ともいわれる。前身は慈根寺で後に西明寺となり八王子権現の別当で神宮寺ともいい明治元年（一八六八）廃寺となる。

現在元八王子小学校前のバス停が「慈根寺」として名を残している。

慈根寺区域は現在の元八王子町

一丁目（旧八幡宿）

二丁目（旧横山宿）

三丁目（旧八日市宿、中宿も含まれる）にあたる。

④ 山口重兵衛の碑

大楽寺町

元八王子事務所の敷地内に、山口重兵衛の顕彰碑がある。この碑は大正十五（一九二六）十一月に四谷の交差点近くに建てられたが、道路拡張のため、昭和五十二年（一九七七）三月この場所に移されたものである。山口重兵衛は嘉永元年（二八四八）八月十日生まれで、大正十五年（一九二六）一月二十九日に亡くなっている。自由民権家で、カトリック信者でもあった。



慈眼寺バス停

山口重兵衛は武蔵国多摩郡下壱分方村に生まれ、後に山口家の養子となった。幼少の頃、駒木野村の国学者落合直亮に師事し国学を修め、文久二年（一八六二）十四歳で自宅に私塾を開き、子供や老人にそろばんを教えたという。

生糸取引の商用で横浜に往復するうちにカトリックに接し、二十七歳で入信。山上卓樹と協力し、明治九年（一八七六）地元にカトリックを導入し、明治十一年（一八七八）に聖瑪利亜教会設立。明治十二年に村会議員、明治十四年（一八八一）板垣退助を総裁とする自由党が結成される時入党し、明治十七年（一八八四）に自宅に鴻武館道場を開き、自由民権運動の勉強や同志の集会所ともなった。明治二十四年（一八九一）七月、十二月神奈川県会議員、明治三十二年（一八九九）南多摩郡会議員になり、政治と自由社会の形成に活躍した人物である。

● 大沢川について

都営八王子霊園付近を水源とし川町、二分方町を東北に流れ横川町で城山川へと注ぐ川。延長三km、流域四・一km、別名を川村川、柳澤川ともいう。



現 泉町教会
(旧 聖瑪利亜教会)



山口重兵衛の碑

増水時には氾濫が多く、家屋や耕地が被害を被ることがあったが、河川改修後は兩岸に遊歩道が設けられ公園なども造られている。上流には、下原刀や梵鐘などの工房跡が残されていたとされる。



大 沢 川

⑤ 村長橋と高堀跡

二分方町（柳沢）

二分方町内を流れる大沢川に架かる橋、大正時代頃まで木造の橋に土を乗せた土橋で、別名「ちよんちよん橋」（又は丸太橋）といい、幅1 m

程で洪水があると流失していた。当時、村役場が大楽寺の長圓寺にあり、川向うに住んでいた村長（宮崎某）が私財をもつて架せられた橋で、其の後コンクリートの橋に架け替えられた。その袂に高堀（高土手）跡が残っている。



高 堀 跡



村 長 橋

⑥ 柳沢の観音堂

二分方町（柳沢）

町内を流れる大沢川の柳橋の近くに建立されている。旧本尊は、澤水寺（虚無僧寺で知られる）の近くにあった仏像であったといわれているが、今は「十一面観音」を神戸山法泉寺より移し、本尊としている。昭和二十年（一九四五）八月、米軍による焼夷弾によって堂は焼失したが、本尊は難をのがれた。現在の観音堂は、平成九年（一九九七）大沢川の改修工事の際、地元住民の寄進によって建立された。また、この近くには由井氏館跡の由比山もある。



観 音 堂



由比氏館跡の由比山



十一面観音



神明社

⑦ 柳沢の神明社

二分方町(柳沢)

勧請 不明

祭神 天照大御神
豊受大御神

以前南側の山地にあったが宅地造成などで、昭和五十五年(一九八〇)頃現在地に移転。周りの柱などの彫り物などに土地の歴史を感じる。境内には「金毘羅宮」と「稻荷宮」の祠が並んでいる。

⑧ 澤水寺跡(虚無僧寺)

二分方町(柳沢)

虚無僧とは、江戸時代に盛行した禅宗の一派で、唐の普化を祖とし尺八を吹いて諸所を巡行した。澤水寺は無住であったため、虚無僧にとっては雨露を凌ぐには絶好の堂宇であったと思われる。

青梅市親町の武蔵鈴法寺(都史跡)を本山としていたが、明治四年(一八七一)廃寺になった。しかし、無住のため払い下げを受けることが出来ず、式分方村の名主(関山氏)名義で、土地を一両二分で買い取ったとされる。



澤水寺跡

⑨ 松子前の大六天神

元八王子町一丁目（団地入口）

勧請 不明

祭神 魔王大六天

榛名神

禰涅神（ねねちしん）

魔王大六天、榛名神、禰涅神の三神は松子前（旧名）の氏子の尊敬する守護神である。

昭和四十二年（一九六七）松子舞団地の造成が始まると共に団地北側の川町を境とする尾根にあったが、現在地に移された。山上にあった頃は見晴らしもよく境内は広く、参拝者の足を休ませてくれたものだと言時を知る古老はいう。

境内には共同膳部を収納した椀倉があるが、時代に適合せず使用する事はない。



魔王大六天・榛名神・禰涅神



大六天神社

⑩ おしやもじ様

元八王子町一丁目

松子舞団地の入口近くにあり、新制作座に向かう右側におしやもじ様が祀られている。何時の頃かは不明だが、以前は団地入口の道角にあったというが、住宅の北側に移りひっそりとしている。社の中には、木や竹で作られたおしやもじが沢山納められている。

市内で現存するおしやもじ様は五、六ヶ所と聞くが、その信仰は殆んど同じで咳止めの神様として信仰されている。家族が百日咳や流行風邪にかかると社内の杓子を借り受け、病が治りますようにと飯を盛るときに使い、全快するとお札に新しい杓子を添えて返納する習わしだという。昔、良い医療や薬が無かった時代、神仏に頼らざるを得なかったが、医療の発展と共にこの民間信仰は失われつつある。



おしゃもじ様内部



おしゃもじ様社

⑪新制作座

元八王子町二丁目

松子舞団地入口にあり、昭和二十五年（一九五〇）劇作家、演出家である有名な真山青果の長女が創立した劇団。昭和二十八年（一九五三）四万五千㎡に新制作座センター完成。

敷地には劇場、迎賓館、真山青果記念館、本館、俳優宿舎、野外劇場、プール等が完備されている。劇団員百三十名を抱え国内を始め海外公演も行っている。

真山美保の「泥かぶら」は戦後の混乱期に、一条の光りを投げかけた名作として有名である。昭和二十七年十月愛知県一宮で初日の幕をあけている。

多くの人々との魂のふれあいのなかで愛の灯をともし続けた「泥かぶら」、その道のあるまま人々の中で人々と共にある新制作座の歴史ともいえる。今もなお多くの人々に生きる喜びを語りかけ、感動を持って迎えられている。



真山美保書



新制作座入口



新制作座劇場



客席（350 席）・大舞台と照明装置等



名作「泥かぶら」的一幕

⑫ 金峰山 西光院 安楽寺
 元八王子町二丁目
 宗派 真言宗智山派（宝生寺末）
 本尊 聖観音
 開基 不明
 創建 天文五年（一五三六）
 西光法印
 江戸期には裏宿（元八王子二丁目）
 の山王社の別当であった。本堂はコ
 ンクリート造りで、一見薬師堂を思



新制作座全景



西 光 院

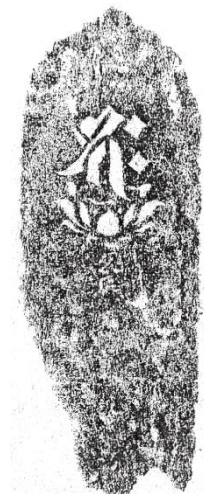


市内最古の板碑

わせる。本尊は聖観音。境内には年
 代不明な石造物が数基ある。裏手の
 個人墓地には市内最古の板碑もある。



市川益太郎家の板碑群



文應年間の板碑（伊藤家墓地）



御嶽神社鳥居

⑬ 道場根の御嶽神社
 元八王子町二丁目
 勧請 不明
 祭神 日本武尊
 （やまとたけるのみこと）
 天正年間（一五七三〜九二）滝山の丹木村にあった蔵王権現社を勧請し、北条氏照が慈根寺村に移転するとき道場根に移した。八王子城陥落十年後の慶長五年（一六〇〇）同地に西光院が創建され、当社の別当寺になり、裏宿在住の檀家信徒によって維持管理されている。



祠



御嶽神社

●養老田（畑）跡地

天保十年（一八三九）この地に住む千人同心の組頭でもある並木以寧（いね）という方が大飢饉で苦しむ村の人々を救うため自分の財産を投じて田畑を買い求め、そこから得られる利益を貧窮した人々に分け与えたという。今でいう社会福祉事業を行ったその跡地は横山原の元八王子幼稚園付近から武蔵野園付近一帯といわれている。以寧は窮民救済の他、書や医学も修め、多くの人々の教育や治療をも手掛けた。



養老田跡地全景

⑭おついで様

元八王子町二丁目

高尾街道の石神坂バス停近くに「おついで様」を奉る小祠がある。別名、石神坂の地藏様とも呼ばれている。基部には「元禄三庚八幡宿念仏講二十四人」と刻まれている。



おついで地藏

●元八王子の横山

天正年間（一五七三〜九二）北条氏照が滝山城下の三宿を慈根寺村に移転した時に付いた地名で横山原ともいい、元八王子二丁目の丘陵地帯をいう。東側石神坂には八王子城の横山口木戸があった所で、現在の城

郭でいうなら大手門にあたる。天正十八年六月二十三日早朝前田勢が突進した横山口木戸跡とされている。また、ここは八幡宿の境で、「おついで地藏」が往来する人々の安全を守っている。



石神坂からの養老田跡

⑮ 共立女子学園と

月夜峰の碑

元八王子町一丁目

共立女子学園は、明治十九年（一八八六）東京神田に創立した共立女子職業学校が前身。昭和五十四年（一九七九）元八王子に移転開校、神田校舎には大学院が残っている。

敷地内はかつて月夜峰と呼ばれていた場所で、見晴らしが良い。その昔、横笛の名手北条氏照は秘蔵の名笛「大黒」を月を観ながら吹いていたといわれる。

氏照の妻、比佐の庵があったと「武蔵名勝図会」や「新編武蔵風土記稿」にも記載があり、石碑が建てられている。

峰の東側には、天正十八年（一五九〇）前田利家の軍勢が八王子城攻略の時、陣を張り、旗を立てた旗塚跡がある。さらに縄文、弥生時代の古い土器をはじめ、奈良、平安時代の住居跡と思われる遺跡も発見されている。



月夜峰の碑



月 夜 峰

この付近からは、加藤鋳物師の工房跡に関する遺物も出土している。

⑯ 滝不動明王と滝跡

元八王子町一丁目

創立年代は不明だが北条氏照が滝山から城下を慈根寺村（元八王子）に移転する以前からあったといわれている。御本尊は青銅造りの不動尊であったが、持ち去られたため石造りの御不動様が安置されている。

不動滝については、永禄十二年（一五六九）廿里（ととり）合戦の時、甲斐（山梨県）の小山田勢を迎え撃つため北条の家臣が滝山城から出陣し不動坂（滝）を通り、激戦後、帰城途中不動滝の水で喉を潤したといわれる。

「新編武蔵風土記稿」には不動堂の脇に滝があり、城山川に流れ落ちていたと書かれている。今は滝はなく僅かばかりの湧水が護岸から城山川に流れでている。



現在の滝不動下の様子（城山川）



滝 不 動

◎参考資料

- ・ 歴史散歩辞典
- ・ 植物で見る万葉の世界
- ・ 八王子市史
- ・ 八王子辞典
- ・ 八王子寺院めぐり
- ・ 八王子発見
- ・ 歴史と浪漫の散歩道
- ・ 元八王子歴史研究会
- ・ 新制作座
- ・ 元八王子の歴史散歩資料
- ・ 小山祐三著
- ・ 国土地理院地図
- ・ 「部落解放運動とキリスト教」
- ・ 沼謙吉『歴史評論』一一二号
- ・ 創価大学民話研究会資料
- ・ インターネット各ページ
- ・ 八王子市郷土資料館資料
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市観光マップ
- ・ 昭文社
- ・ 中島善弥著

メモ